

ヤマボウシとハナミズキ

牧 幸 男

7月中旬までは、高温多湿で梅雨の最盛期だろう。植物が最も盛んに生育する季節で、ヤマボウシ *Cornus kousa* は、そんな季節に咲く唯一の大形の花である。この植物は、卵形の大きな四枚の真っ白な総苞片を開くのが特徴で、花が咲き揃う姿はまことに見事である。万緑に映え、谷を隔ててもそれとすぐ分かる。

数年前、知人から娘が6月に結婚する。思い出に家の庭に木を植えたいと言っているが、6月にふさわしい木は何かいいか相談されたことがあった。その折、ヤマボウシを薦めた思い出がある。また、星野リゾート（旧星野温泉の四代目の故星野嘉助さんから、父親はヤマボウシの花が大好きだったとお聞きしたことがあった。三代目嘉助氏は「星野温泉のあゆみと宿泊者が著した著作」などを編纂したB5版600頁程の本を著しているが、その題名を『やまぼうし』としている。著書の中で「書名の『やまぼうし』は別名を「やまくわ」とも呼び「アメリカ花水木」に似ている。……多数の小花が球状に集まって咲く花は、可憐でしかも緑の若葉にいだかれていて、清楚で美しい。『山法師』という名は、丸いつぼみの集まりを坊主頭に、白い総花を頭巾と見立てたのであろう。花の盛りは木全体が真白になるほどである。秋には莓に似た真赤な実を結び、食べることができる。」と記述がある。

ヤマボウシは、各地の山野に生育する日本特産植物で、3～8m位に成長するミズキ科落葉高木、初夏の頃枝先に花柄を出しその先に一群の花をつける。街路樹に使われることがいるが、庭木に植える家が多くなった。

日本の近縁種で外来種のハナミズキ *C. florida* があるが、この植物日本の山野には自生しない。しかし、最近、街路樹に最近多く採用されすっかり日本に定着している。ハナミズキは、ヤマボウシと同じミズキ科の植物で、明治時代の中頃我国の渡来したいようである。この植物に関する、有名な話が伝わっている。1912年（大正元年）に東京市長の尾崎行雄氏がワシントン市ヘソメイヨシノの苗木を贈呈した。その返礼として1915年（大正4年）にアメリカから日本に贈呈された植物がハナミズキである。ハナミズキは、落葉広葉樹の小高木から高木で、日本では樹高3～8m程であるが、原産地では高さ12m程に成長している。

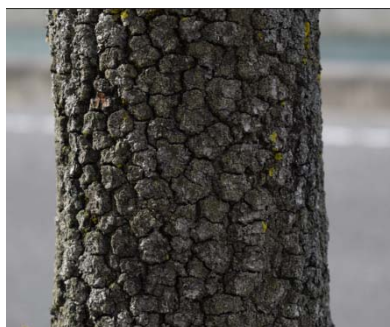
贈られたハナミズキは全部で60本、うち白花の苗木が40本、ピンク花の苗木が20本で、日比谷公園、小石川植物園などに植えられた。ハナミズキは第二次世界大戦中敵国の植物として、ほとんどが伐採されてしまった。私達は、このような出来事を知らなければいけないと思う。

戦後小石川植物園で切株が発見されて、その標本が憲政記念館に展示されており、原木は現在東京都立園芸高等学校に残っているのみである。なお、和名の**ハナミズキ**は、日本のミズキ科のミズキ *C. controversa* よりも美しく目立つことから名付けられた。

ヤマボウシとハナミズキについて、区別を質問されることがある。

植物の特徴は樹皮、花の咲き方と時期、果実の結実、薬効の違いがあるので解説する。

樹皮の特徴は、ハナミズキは成長しても樹皮は灰白色から灰黒色で、網目状に細かく深い割れ目がある。若木の樹皮は滑らかだ。一方、ヤマボウシは成長と共に樹皮が剥かれる。



ハナミズキの樹皮



ヤマボウシの樹皮

花の咲き方と咲く時期は、ハナミズキは4月頃葉が出る前に咲く、ヤマボウシは6月頃葉が出てから咲く。



ハナミズキの花



ヤマボウシの花

果実の結実の違いは、ハナミズキは食用にならないと言われている、ヤマボウシはジャムなど食用に利用している。



ハナミズキの果実



ヤマボウシの果実

薬効は、ハナミズキは犬の皮膚病、止血、鎮痛、防腐作用に、ヤマボウシは効能が示されている文献もあるが、渡来時期から私は確言できない。

ハナミズキをアメリカヤマボウシと呼び、ヤマボウシをヤマトハナミズキと呼ぶ人もいる。茶人には好まれる植物だが、花が梅雨時期に咲くためか、昔から詩歌に登場する機会が少ないようだ。

やまぼうし ひときおほ

四照花の 一本覆ひて 白き花 満ちるとき 母逝き給うふ

夏ごとに 木の暮れまぎれ 見過ぐし 花やまぼうし 白白しろ

霧深く 恥づらうごとく 山法師 菖蒲あや

雨去つて 白眉の花の 山法師 米谷静二

上皇后美智子皇后様

鹿児島寿蔵

植物名は、「日本名は山法師で、多分丸い蕾の集まりを坊主頭に、白い総包をその頭巾に見立てたのであろう。ヤマグワは山桑で、食用となる集合果を桑の実に見立て、野性の桑の意味である。漢名は習慣的に四照花が用いられる。」と牧野富太郎博士は述べている。別名は、数多くがあり、山帽子、山饅頭、唐桑、山雅等がよく使われる。外観や秋実る集合果を桑の実に見立てた名前が多い。

学名の *Cornus kousa* は、属名は角の意味で材質が堅いため、種小名はクサの意で、箱根でヤマボウシのことをクサと呼ぶことに由来している。

薬用は、疲労回復、食欲増進、鎮静に効果がある。又、この果実の薬酒は疲労回復に使用。

食用は、秋に熟する実はそのまま食べると甘く、ジャムにすると美味しく喜ばれている。

材質は、硬いので玄能の柄（石屋が石を割るとき使う柄）、掛矢（木槌）、砧の槌、餅搗きの杵や藁叩きの杵等に使われる。

以前、アメリカの友人故 Sam Long 氏が我が家を訪れた時、丁度ハナミズキが満開であった。「この花はアメリカではポピュラーな植物で、水を好む木で、英語で Dogwood 言う。この樹皮を煮て犬皮膚の虫退治に利用したことが名前の由来である。」と語ってくれたことを思い出す。一方、木製の串を意味する古い英語の「dag」「dog」を作る材料に使われる堅い木であったことからとも言われている。

ワシントンDCを訪れたことがあった。ポトマック公園のソメイヨシノは、更に多く植栽され見事に整備されており、日本でも学ぶべきかと思った。

花言葉は、友情である。

